平成25年8月8日

各　位

会 社 名　応用地質株式会社
代表者の
役職氏名　代表取締役社長　成田　賢
（コード番号　9755　東証第一部）
問合せ先　取締役常務執行役員 事務本部長
河野　啓三
TEL 03-3234-0811

応用地質グループ中期経営計画OYO Step14（2014年～2017年）
－次の飛躍Jumpに向けた成長基盤の確立－

当社は、「応用地質グループ長期経営ビジョンOYO2020」（2009年公表）の第３期（2014年～2017年）に相当する中期経営計画 OYO Step14を策定しましたので、お知らせいたします。

応用地質グループ長期経営ビジョンOYO2020（以下OYO2020）は、リーマンショックに起因した世界経済の減速と、国内建設投資の減少トレンドが継続する中で、応用地質グループが2020年に向けて目指すべきビジョンとビジョン達成のための基本方針を明らかにしたものです。

次期中期経営計画OYO Step14（以下OYO Step14）は、OYO2020の準備（計画試行）段階であるOYO Hop10に続く展開段階に相当し、今年が最終年となる中期経営計画OYO Hop10（以下OYO Hop10）で試行した成果を活用した事業展開を推進するとともに、海外を中心に市場を拡大することを大きな柱としています。

『中期経営計画 OYO Step14』（2014年～2017年）

１． OYO2020におけるOYO Step14の位置づけ

OYO Hop10では、応用地質グループの調査・コンサルティング事業が、従来の事業スタイルでは成長が見込めないことから、ビジネスモデルを変革することにしました。このため、OYO Hop10の基本方針を「成長に向けたビジネスモデルの再構築」とし、事業戦略を「地域拠点戦略」から「事業展開戦略」に転換することにいたしました。そして、OYO2020の準備段階であるOYO Hop10では、事業展開戦略に必要な要素技術の強化や不足するリソースの獲得を行うとともに、様々な方策・試行を行いました。

また、OYO Hop10の期間中には、未曽有の災害となった東日本大震災が発生し、この震災によって社会ニーズが変化するとともに、応用地質グループが注力すべき事業分野が明確となり、震災復旧・復興事業を中心として「事業展開戦略」を推進いたしました。この結果、OYO Hop10の業績数値目標を達成する見込みとなりました。

OYO2020の準備段階である OYO Step14では、強化した要素技術、獲得したリソースを活用するとともに、成果の確認できた方策・試行結果を展開してまいります。

２． OYO Step14の連結業績目標

OYO Step14では、事業展開戦略で確立したビジネスモデルを展開し、応用地質グループの過去最高水準の業績を目指します。

OYO Step14の最終年（2017年）における連結業績目標は次のとおりです。

- 連結売上高：585億円
- 連結売上高営業利益率：10%（連結営業利益：58.5億円）
- 総資産経常利益率８％
- 海外売上比率：30%

（ご参考）応用地質グループの過去の連結業績

連結売上高573億円、連結売上高営業利益率10.5%（1996年）
連結売上高585億円、連結売上高営業利益率 6.6%（1997年）
連結売上高576億円、連結売上高営業利益率 4.4%（1998年）

３．OYO Step14の基本戦略

OYO Step14では、応用地質グループの持続的な成長に向けて、OYO Hop10の成果を活用して事業を拡大します。また、事業を支える経営基盤を強化します。

なお、応用地質グループが事業展開する領域は、「持続可能な社会の構築」のために、「安全と安心の確保」を目指して、①防災・減災、②環境、③エネルギー・資源、④豊かな暮らしを支える公共インフラの４つの領域です。

（１）事業の拡大

- ストック型ビジネスの拡大（情報システムサービス、モニタリングサービス 等）
- 高付加価値サービスによる事業展開（循環型廃棄物処理 等）
- 海外市場の拡大（中国、東南アジア、西・中央アジア、環太平洋 等）

（２）経営基盤の強化

- 戦略組織の整備・強化（研究・技術開発組織、シンクタンク組織 等）
- 経営資源の活用と効率化（開発・設備投資、M&A 等）
- 人材の確保・育成（新規事業、海外事業等に必要な人材）
- 企業の社会的責任ＣＳＲの取組み強化（IS02600）

４．OYO Step14で展開する事業分野と事業内容

OYO Step14では、ストック型ビジネスを拡大し、高付加価値サービスの事業展開を推進することを計画しており、以下の６つの事業を展開いたします。

- 調査・コンサルティング事業（国内）
  - 専門技術サービスを、フロー型とストック型の両タイプで展開。
  - 地球科学技術を用いた調査・分析、予測・評価、モニタリング、エンジニアリング、コンサルティングの各種サービス。

- **調査・コンサルティング事業（海外）**
  - **基本的には、国内の調査・コンサルティング事業と同じであり、海外の現地政府、現地企業を顧客として事業を展開。**

- **情報サービス事業**
  - **OYO Hop10の成果を受けて、新たに調査・コンサルティング事業から分離・独立させる事業で、ストック型ビジネスが主体。**
  - **地盤情報、土地診断レポートなど、主に地盤に関わる各種情報提供と評価サービス（情報やライセンスの販売、クラウドサービス）、並びに地盤情報を活用した事業支援サービス。**

- **循環型廃棄物処理事業**
  - **OYO Hop10の成果を受けて、新たに調査・コンサルティング事業から分離・独立させる事業、フロー型とストック型の両タイプのビジネス。**
  - **東日本大震災等の災害廃棄物処理で得た防災分野と環境分野の知見を活かした廃棄物処理サービスを新たに展開。**

- **計測機器事業（国内）**
  - **調査・計測機器、モニタリング機器等の開発・製造・販売・レンタルおよびシステムの販売。**

- **計測機器事業（海外）**
  - **各種センサー開発、これらセンサーを用いた地震計、非破壊探査機器等の計測機器の開発・製造・販売・レンタルおよびシステムの販売。**
  - **新たな分野向けのセンサーおよび製品の開発。**

詳細については、添付しております資料をご参照下さい。

次期中期経営計画

OYO Step14 (2014年-2017年)

－飛躍Jumpに向けた成長基盤の構築－

I. 長期経営ビジョンOYO2020
II. OYO Hop 10のレビュー
III. 次期中期経営計画の基本方針と目標

1

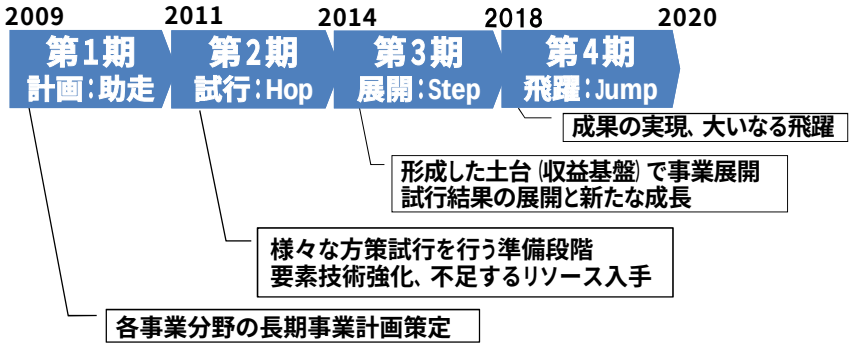
Ⅰ．長期経営ビジョンOYO2020

2

長期ビジョンOYO2020

長期ビジョンにおけるOYOグループの将来像
社会科学的視点を備え、新たな価値や政策等を発信･提言できる地球科学系シンクタンク機能を持つ
「地球科学に関わるグローバルな総合専門企業グループ」

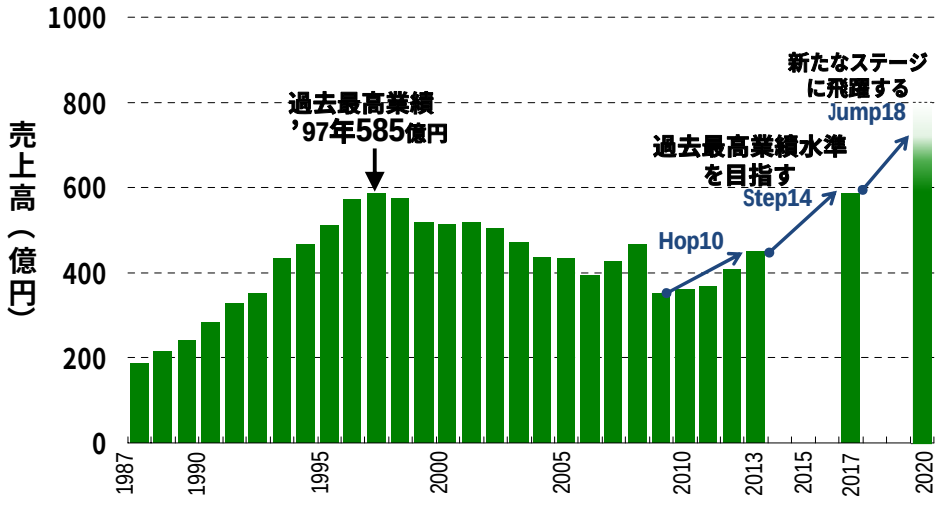
◆長期経営ビジョンＯＹＯ2020における中期経営計画の位置づけ



3

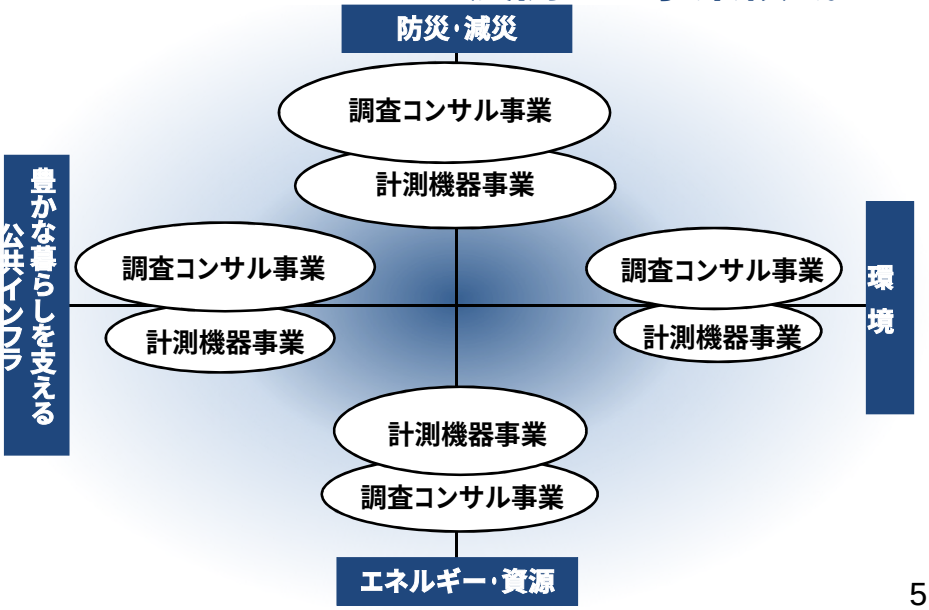
2020年に向けた事業規模

- 事業領域の拡大
- 成長市場への参入
- 新規市場の創出



4

「安全と安心の確保」を目指して展開する事業領域



5

Ⅱ. OYO Hop10のレビュー
- Hop10の成果と課題 -

6

長期ビジョンとOYO Hop10

長期ビジョンにおけるOYOグループの将来像
社会科学的視点を備え、新たな価値や政策等を発信・提言できる地球科学系シンクタンク機能を持つ
「地球科学に関わるグローバルな総合専門企業グループ」

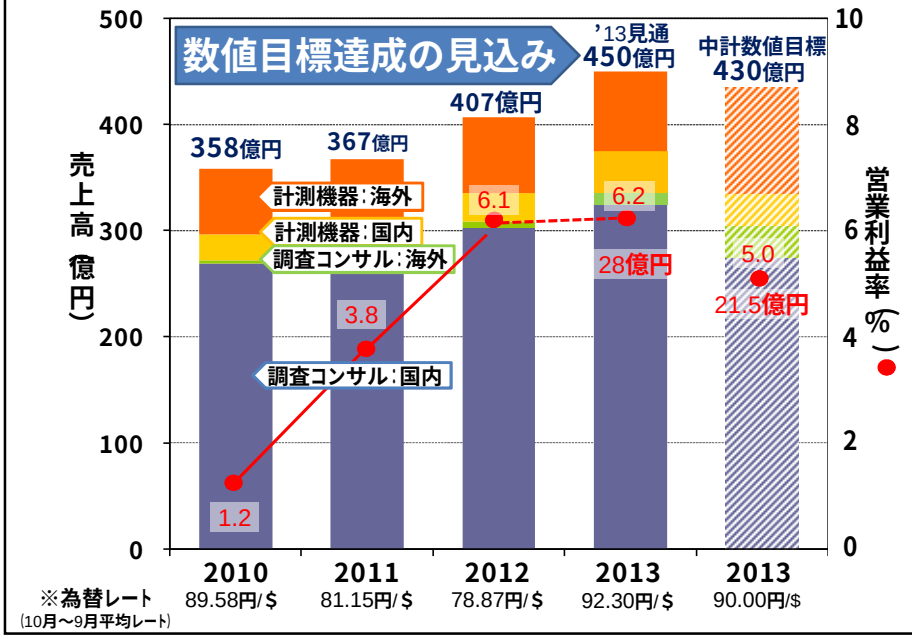
◆**長期経営ビジョンＯＹＯ2020における中期経営計画Hop10**

Hop10は、売上の約3/4を占める調査・コンサルティング事業の収益性を向上させるために、「地域拠点戦略」から「事業展開戦略」への転換を目指す



7

OYO Hop10の数値目標と推移



8

OYO Step14で考慮すべき課題

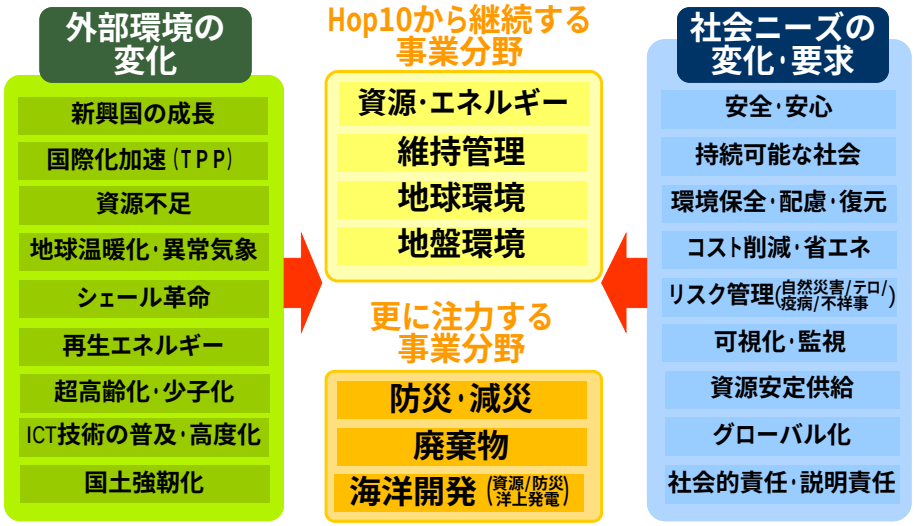
① Hop10で優位性を確認した技術･サービスの事業化加速
② ストック型ビジネスの拡大と収益性の向上
③ グローバル企業として海外市場を拡大
④ 開発･設備投資、M&A、資本提携に向けた資金の活用
⑤ 新規事業、海外事業に必要な人材の充実
⑥ グローバル企業として相応しいCSRの取組み強化

9

III.次期中期経営計画OYO Step14の基本方針と目標

10

OYO Hop10を経た後の事業環境変化



11

長期ビジョンとOYO Step14

長期ビジョンにおけるOYOグループの将来像

社会科学的視点を備え、新たな価値や政策等を発信・提言できる地球科学系シンクタンク機能を持つ

「地球科学に関わるグローバルな総合専門企業グループ」

◆長期経営ビジョンＯＹＯ2020における中期経営計画Step14

次期中期経営計画では、今後OYOグループがさらなる成長を達成するために、Hop10の成果を活用し、成長市場への参入、新市場の創出などを積極的に推進



12

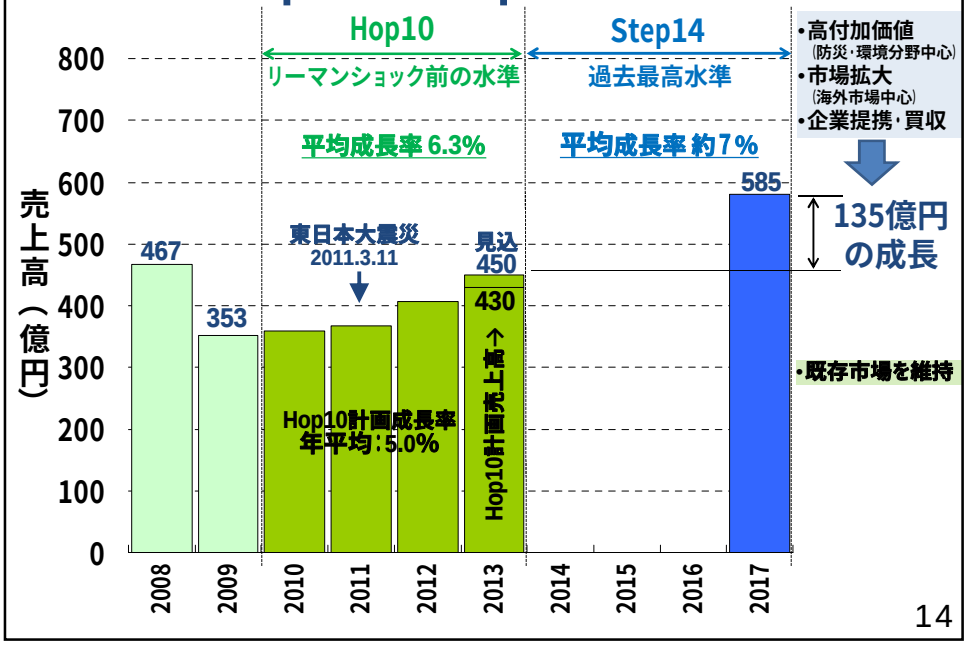
高付加価値なサービスを国内外に提供して過去最高水準の業績を目指す

■ OYO Hop10の成果をベースとして、第4期の飛躍Jumpに向けた成長基盤を構築

- ➢ 震災後に変化した社会ニーズに適合する防災･環境分野の高付加価値サービスの事業化とストック型ビジネスの拡大
  - エンジニアリングと計測機器を組み合わせて、事業やプロジェクトの管理に活かすモニタリングシステムの構築と市場開拓
  - 循環型廃棄物処理事業の着手
  - 地盤に関する情報･知見を活用した情報サービス事業を本格化　など
- ➢ OYO Hop10の取組みを加速し、海外を中心に市場拡大
  - 設立した海外拠点事業、並びに提携企業との海外事業を積極展開
  - 海底地盤の調査･探査サービスを世界的に展開　など

13

Hop10とStep14の成長



14

OYO Step14の基本戦略

・経営理念
・経営ビジョン

持続可能な社会の構築のために貢献
「安全と安心の確保」を目指して、4つの領域で貢献する
- 防災・減災
- 環境
- エネルギー・資源
- 豊かな暮らしを支える公共インフラ

・長期経営ビジョン
OYO2020

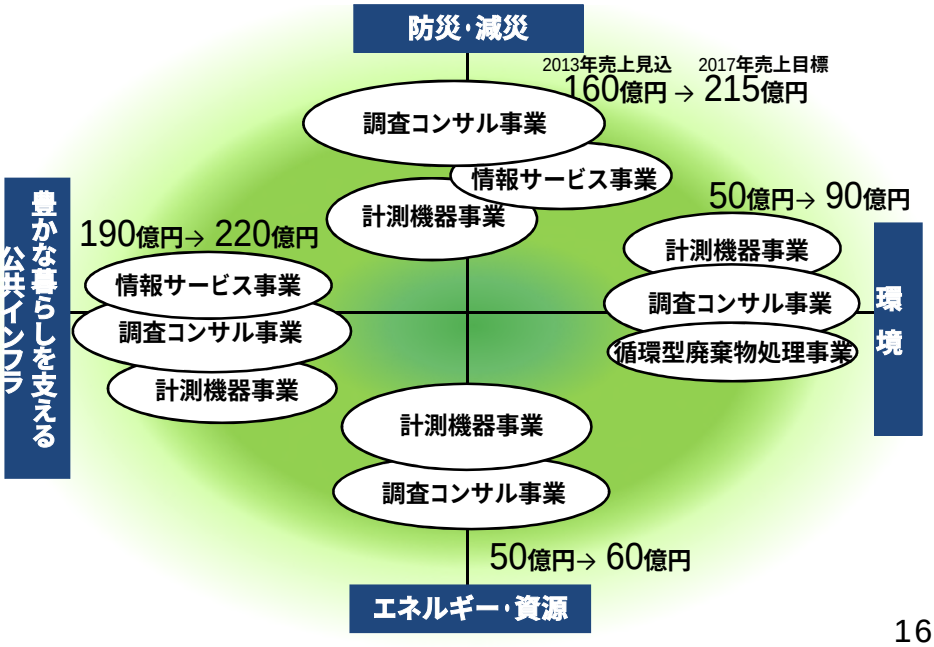
次の飛躍Jumpに向けた成長基盤の構築

【事業の拡大】
①ストック型ビジネスの拡大
②高付加価値サービスによる事業展開
③海外市場拡大

【経営基盤の強化】
①戦略組織の整備・強化
②経営資源の活用と効率化
③人材の確保・育成
④CSRの取り組み推進

15

「安全と安心の確保」を目指して今後展開する領域



16

OYO Step14で展開する事業

事業名	売上	主な事業内容
調査・コンサルティング事業（国内）	335億円	• 地球科学技術を用いた調査・分析、予測・評価、モニタリング、エンジニアリング、コンサルティングの各種サービス • フロー型ビジネスとストック型ビジネス（今後ストック型拡大）
調査・コンサルティング事業（海外）	40億円	※国内の調査・コンサルティング事業と同じ事業内容
情報サービス事業 ※調査・コンサルティング事業から分離	20億円	• 地盤情報、土地診断レポートなどの主に地盤に関わる各種情報提供と評価サービス（情報・ライセンス販売、クラウドサービス）、ならびに地盤情報を活用した事業支援サービス • ストックストック型ビジネスが主体
循環型廃棄物処理事業 ※調査・コンサルティング事業から分離	20億円	• 東日本大震災等の災害廃棄物処理で得た防災分野と環境分野の知見を活かした廃棄物処理サービスを新たに展開 • フロー型ビジネスとストック型ビジネス
計測機器事業（国内）	40億円	• 調査・計測機器、モニタリング機器等の開発・製造・販売・レンタルおよびシステムの販売
計測機器事業（海外）	130億円	• 各種センサー開発、これらセンサーを用いた地震計、非破壊探査機器等の計測機器の開発・製造・販売・レンタルおよびシステムの販売、新たな分野を積極的に開拓

17

OYO Step14の数値目標

- 経営数値目標
  - 指標その1・・・事業領域の拡大・付加価値の向上
    - 売上高：585億円
    - 営業利益率：10%（58.5億円）
  - 指標その2・・・経営資源の活用と効率化・活性化
    - 総資産経常利益率：8%以上
  - 指標その3・・・海外市場の拡大
    - 海外売上比率：30%以上

18